

14. 8. 26
第 701

社 後
不 士
社 組
ハ

大 勢

一 奇 談

正義人道の士に對し 東京市民諸君！

我等は何故かくも血を流し身を碎いてまでも闘はねばならないか？
種々なる産業部門に分たれて膨大な労働者があるが一人として録なきしをしてゐるものは無い。それよりも一段下つた乞食同然の生活をさせられてゐる被搾取階級がある。それは諸君の嫌悪を買つてゐる新聞配達夫である。

法律で禁ぜられてゐる押賣と得意先の不拂代金等の一切の責任制を押しつけられた集金は配達ばかりでさへ容易でない上には死の苦しみである。
寄生虫的存在支局主任の本社で寄越す女工よりも安い配達給の頭を刳ねることは最早常識化され、尙その上にいろいろの責任制をもうけて結局食費と布服代を差引けば三四圓とこそこの現金支拂ひで済む様に實に巧妙に搾取してゐる。南京虫と血の單層新聞屋の八位位の二階の部屋に一人當り一疊にもならない位の人數を詰結めにしてゐる。勿論冬の火鉢や夏の蚊帳等店主の所謂贅澤なものもあらう筈は無く、どす青くうす汚れた襦袢を露出し、十數人の配達夫が故と開ひ乍らねむつてゐる有様は、飛災當時の被服廠の慘狀そのまゝである！ こうした恐ろしい地獄が大東京の然も目抜の諸所に現實に存在してゐる！

去る十六日東京毎夕新聞支局十店の配達は遂に堪え得ずして力を一つに失つた！ ほんの僅かな待遇改善の要求を迫つて断然ストライキに入つたことは第一報の通りである。惡戰苦闘最後の血の一滴までも開ひ抜くと鐵の如き強固な結束のもとに勇猛に闘争を續けてゐる。

三菱を相手取り、不當にも三十萬圓の立退き料を半脅的に要求してゐる事件屋の總元締・すでに社會に定評あるゴロツキ・ドロ政事木村政次郎を社長とする東京毎夕新聞の惡徳振りは昔語を絶したものである！ 従業員えのダニの如き吸血ばかりでなく購讀者へ對する詐偽的行爲の巧妙さを見ろ！ 「購者が火災の場合には百圓の見舞を出すと云ふ美味しい言葉で中間階級以下の市民を釣り販賣擴張に狂奔してゐるのである！ 百圓の見舞金を貰つた話を一つも聞かないが、ペタンに乗つて啞然たる購者は無數だ！ 販賣部にのさばるドロ政の乾分共は皆新聞屋のゴロツキ主任なり上りものだ。彼等のかゝけるスローガンは販賣擴張のための配達人酷使のためにはとどしとどしぶんなぐれと云ふのだ！

理解ある市民諸君！
私達は金力も権力も無い上に新聞と云ふ唯一の發表機關をも奪はれてゐるので、彼等新聞者本廠は工場の小つほけな争議を誇大と書き立てることは忠實だが、自己の不當な搾取は徹底的にかくし合ふべく各社は固く協定をして絶対に替かないのです。

幸ひこの機文を一讀された諸君！
社會の害虫をこの機會に於て徹底的に一掃する意味で又氣の毒な全新聞従業員が少しでも人間らしく生存出来る様御協力下さい！
東京毎夕新聞の購讀を即時中止下さい！
争議團員百餘の血を以て喚願いたします!!!

- 一、毎夕新聞を絶対に讀むな！
- 二、全市的ポイコットの大渦を捲き起せ！
- 三、全市に一枚の毎夕のかけをも見る能はしめるな！
- 四、惡徳毎夕新聞購讀者大會を持て！
- 五、毎夕本社の輪轉機を止めろ！

東京毎夕新聞争議團
全産業労働組合全國會議
全國新聞労働組合
府下淀橋町柏木一八七